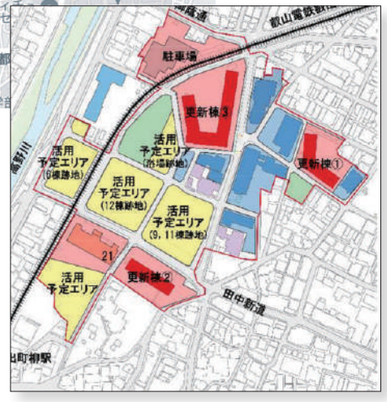
コミュニティ活動助成

かもがわデルタフェスティバル実行委員会

京都府京都市

多世代・多国籍な住民が暮らす京都養正学区におけるまちづくり活動

団地建て替え後の跡地の活用について話し合う「未来のまちづくりミーティング」



京都市内に流れる加茂川と高野川の合流地点の東側に位置する市営住宅群があるエリアを活動範囲とする。右の図は京都市による団地再生計画の概略。最も古い住棟で築60年を超え、住民の高齢化率や空き家率も高くなっているため、建て替えにより地域コミュニティの活性化を目指す

団体設立経緯

地域の公共施設「京都市左京西部いきいき市民活動センター」の呼びかけにより、20年ほど前まで開催していたお祭りを復活させました。2017年から3年間実施した、このお祭りの運営母体「ようせい夏まつり実行委員会」が、当団体設立の基となっています。お祭りの復活は地域に喜ばれ、また多様な団体が参画したことで、地域団体間の対話が生まれるきっかけにもなりました。

新型コロナウイルス禍による中断を経て、活動を継続するために規約などを整え運営母体を強化したのが、当団体「**かもがわデルタフェスティバル実行委員会**」です。地域のお祭りを運営するのみならず、祭りを通じて対話を育み、地域のまちづくりに貢献することを目的としています。

活動概要と活動対象範囲

活動の対象範囲は、京都市の北東部賀茂川と高野川が合流する通称「鴨川デルタ」の東部地域。市営住宅団地が立ち並ぶエリアとその周辺部です。

主な活動の概要は以下の5項目となります。

①京都市営住宅団地の団地再生計画によって生まれる跡地の活用を話し合う「**未来のまちづくりミーティング**」の開催

②「未来のまちづくりミーティング」で話し合われた内容を周知するための「**未来のまちづくり通信**」の発行

③「未来のまちづくりミーティング」で話し合われた内容を京都市に伝える**意見書**の発行

④多文化共生をテーマにした地域のお祭り「**かもがわデルタフェスティバル**」の開催

⑤活動を支える「**まちづくりサポーター**」の募集

活動に至った理由や背景

この地区には、中層・高層の市営住宅団地が建ち並んでいます。その住宅群が段階的に取り壊され、およそ10年後には新たな街として生まれ変わる予定です。

しかし、この計画で生まれる跡地の活用やまちのあり方に関して、住民の間では話し合いの機会はこれまでありませんでした。再生計画が進む団地内では過去の経緯から窓口となるべき自治組織が事実上消滅しており、団地外住民との対話も少ないままとなっていました。そこで団地内外の各種の住民団体を構成員に持つ当団体が呼び掛けて、住民意見を集約する会を始めていくことになりました。

大半の住棟が築40年以上と、老朽化が進む

主に団地再生に伴って生まれる跡地活用について話し合い、併せて地域のまちづくりについて語り合う会です。もともと今年度はお祭りを通じて地域の話し合いの機運を醸成していく想定で、跡地についての話し合いはそれからと考えていました。しかし、京都市の団地再生計画のスケジュール上、検討は急を有するという判断から、跡地について検討する「**未来のまちづくりミーティング**」と、それに付随する事業に重点を移して活動することになりました。

活動内容と成果

京都市が進める養正（ようせい）市営住宅の団地再生計画では、老朽化した団地の住棟を集約し、大きな跡地が生まれる予定です。この跡地の活用法はまだ未定であり、京都市にも住民の声を聞きながら事業を進めることが求められています。しかし、住民の窓口となる組織が存在しないことで、市営団地とその周辺地域の住民に対して計画の情報を広く共有し、意見を集約することができていませんでした。

すでに21年度から住棟の除却と新しい建物の設計が始まっており、跡地活用について地域住民の意見を集約し京都市に伝えることが急務となりました。そこで私たちが呼びかけ人となり、「未来のまちづくりミーティング」を下記の通り開催しました。基本的な知識を共有し対話を育みたいと、団地再生計画の概要を知るところからはじまり、地域の歴史を知る会、様々な世代の方の意見を聞く会、実際に団地内を歩いてどのように町が変貌するかを現場で見て実感していただく機会も持ちました。そうした積み重ねを経て、3回にわたってワークショップ形式の意見交換会を開催しました。併せて、こうした会議の内容についての広報活動も行いました。

ワークショップ形式も含め、計9回のミーティングを実施した。現在の住民に加え、住宅で育ち巣立った若者なども参加する

10月には地域のお祭り「**かもがわデルタフェスティバル**」を開催しました。お祭りはコロナ禍による影響を若干受けながらも、久々の本格開催ということで多くの人が来場してくださいました。このお祭りを通じて、実行員会ならびに地域住民との交流が活発になりました。

今年度の活動の具体的な内容は下記の通りとなります。

【未来のまちづくりミーティング】

第1回は養正小学校体育館。2回目以降は京都市左京西部いきいき

年度後半にはワークショップ形式を取り入れ、意見の集約を図った。写真は11月に実施したまち歩きの様子

市民活動センターサロンを会場として実施しました。

第1回：2022年3月26日

テーマ「養正市営住宅団地再生計画の概要を知ろう」 参加者60名 ＊助成対象外

第2回：4月23日

テーマ「養正市営住宅団地の歴史を学ぶ。団地再生への思いを団地住民に聞く」 参加者54名

第3回：5月28日

テーマ「団地周辺部にお住いの方の思いを聞く」 参加者46名

第4回：6月25日

テーマ「子育て中の方に跡地活用への思いを聞く」 参加者39名

第5回：7月23日

テーマ「20代、30代の若い方に跡地活用への思いを聞く」 参加者33名

第6回：8月27日

テーマ「専門家の声を聞く」 参加者28名　講師：乾亨・立命館大学名誉教授

第7回：11月26日

ワークショップ1　参加者23名

第8回：12月24日

ワークショップ2　参加者16名

第9回：23年1月28日

ワークショップ3　参加者31名

【ウェブサイトでの情報発信】

「未来のまちづくりミーティング」に参加できなかった人に向けて、発言内容を克明に記録した全会議の議事録をウェブサイトにアップし、欠席者にも会の雰囲気や発言内容が伝わるようにしました。

お祭りの情報をはじめこうした情報は、かもがわデルタフェスティバルのSNSなどでも発信しました。

【未来のまちづくりミーティング通信の発行】

ウェブページを見られない方に向けて、「未来のまちづくりミーティング」で話し合われた内容を詳細にお伝えする「未来のまちづくり通信」を第4号まで発行しました。

【かもがわデルタフェスティバルの開催】

22年10月1日から16日までの会期で「**かもがわデルタフェスティバル**」を開催しました。10月15日に養正児童公園・希望の広場で開催したメインイベントの「多文化まつり」には、老若男女800名もの参加者が集まりました。多文化共生をテーマに掲げ、外国籍の市民も多数訪れました。

お祭りを通じた交流は実行委員会の結束を強め、「未来のまちづくりミーティング」での出席者の距離感にも変化をもたらしました。また、「まちづくりサポーター」の募集に際しても、お祭りを通じて育まれた関係が力になりました。

【まちづくりサポーターの募集】

私たちの取り組みを支援し、活動を共に支える「まちづくりサポーター」を募集しました。活動の趣旨に共鳴いただいた方など、50名近いサポーターが集まりました。

議事録をウェブ経由で発信➡https://note.com/kamo_delfes/n/n0ea6a71cc1e0

10月に開催した「かもがわデルタフェスティバル」のメインイベント「多文化まつり」。各国のダンスなどで盛り上がった後は、地元の盆踊りで締めくくった

【意見書の作成】

「未来のまちづくりミーティング」の第7回から第9回までは、跡地活用に関するワークショップを実施しました。そこで出た意見をまとめて、意見書を作成しました。この意見書をお披露目して説明するミーティングを23年4月に実施し、その場でのフィードバックも加えた上で京都市に提出する予定です。

【アドバイザーのサポート】

上記の活動には、京都市すまいまちづくり課、左京区まちづくりアドバイザー、京都府立大学 京都地域未来創造センター シンクタンク・生涯学習コーディネーター、行政系コンサルタント会社社員といった方々がオブザーバーとして関わりました。適宜いただくアドバイスを活かしながら、進めることができました。

課題と解決方策

「未来のまちづくりミーティング」では、団地再生に伴って生まれる跡地の活用について話し合う予定でした。しかし、そもそもの住棟建て替えや、京都市の都市計画、行政の進め方など多岐にわたる意見が続出し、9回のミーティングを重ねたものの、跡地に関する意見集約を図るまでには至りませんでした。また、参加した市民の意見を聞くことはできたものの限定的で、地域住民の意見を代表するものであるとは言い切れない状況です。

団地再生計画はスケジュールにしたがって着々と進んでいくため、早急に住民意見の集約を図らなければなりません。そこで、「未来のまちづくりミーティング」を次年度も継続するとともに、地域の住民が広く参画するまちづくり団体の立ち上げを目指します。地域の声を京都市に届け、地域のまちづくりを推進する体制を整えていく計画です。

今後の予定

23年4月22日に第10回未来のまちづくりミーティングを開催し、京都市に提出する意見書について意見交換します。6月ごろを目処に、このミーティングで出された意見を盛り込んで、意見書を提出します。「かもがわデルタフェスティバル」は1カ月前倒しの9月に時期を移して開催する予定です。

10月ごろを目処に第11回未来のまちづくりミーティングを開催し、京都市が策定を予定する跡地活用案を検討します。12月ごろには、地域のまちづくりを推進し、住民意見の窓口となる団体設立に向けたミーティングを開催する予定です。

かもがわデルタフェスティバル実行委員会

2021年6月設立／メンバー数：13人／代表者：浅井 吉弘（あさい・よしひろ）
075-712-0138　deltafes.com/

私たちは、市営住宅が立ち並ぶ京都市養正学区とその周辺地域で、お祭りを通じて地域内の対話や交流を促進しながら、魅力あふれる地域となるようなまちづくりを推進しています。